

■研究テーマ

- 女性の満足度を高める助産ケアの開発と評価
- 母親支援プログラムの開発と評価

■キーワード

助産、助産ケア、育児支援・母親支援

■産業界の相談に対応できる技術分野

分娩介助シミュレーターの開発、産婦の満足度調査、出産体験の満足度尺度の開発

■主な設備

フリースタイル分娩室、看護相談室



常盤洋子 教授

連絡先

大学院保健学研究科（母性看護学・助産学） 常盤 洋子 TEL・FAX：027-220-8914 e-mail：ytokiwa@gunma-u.ac.jp

研究概要

「産んでよかった」「母親になれた」「母親になってよかった」等、妊娠・出産による成長体験を支持し、母親の心理的健康の側面から子育てを支援するプログラムの開発

近年の周産期医療の発達による出産の医療化に伴い、出産によって母子が死亡することがまれな現象になってきました。一方で、出産の医学的安全性の確保と同時に出産をより満足で価値ある体験にしたいというニーズが高まっています。出産は母親の主観的な体験であるため、医学的には正常分娩であったとしても、母親が自分の出産に満足が得られないことが原因でうつ状態となり心理的に母親になれない母親がいます。我々の研究室では、母親支援の一環としての出産体験の意味づけと母親の心理的健康の側面から子育てを支援する母親支援プログラムの開発とその評価に関する研究を行っています。

そこで、まず、出産体験の満足度を評価する尺度を開発しました。欧米では1960年代から出産体験と産後うつや心的外傷・乳幼児虐待との関連についての研究が行われ、母親の

メンタルケアのアセスメントツールとして出産体験の自己評価尺度が開発されました。しかし、出産は文化の影響を受けるので欧米で開発された尺度はわが国では適応しにくいいため、日本人で出産後7日までの母親1500人を対象に2000年に出産体験の自己評価尺度を開発しました。

出産体験の自己評価尺度（常盤，2000）

「産痛コーピングスキル」	「信頼できる医療スタッフ」	「生理的分娩経過」
1)陣痛の強さに合わせて呼吸法ができた	8)助産師と医師の連絡がよかった	14)お産が順調に経過した
2)いきみ方がうまくできた	9)信頼できる助産師がそばにいた	15)自分の力で産むことができた
3)苦しくても赤ちゃんのために頑張った	10)わかりやすい説明があった	16)自然な経過で生まれた
4)お産の痛みを受け止めた	11)信頼できる医師がそばにいた	17)自分の期待通りのお産ができた
5)「痛い」「助けて」など、弱音を吐かない	12)自分のお産の経過を教えてもらった	18)自分の思い通りのお産ができた
6)精神的に落ち着いてお産ができた	13)すべて助産師にお任せできた	
7)リラックスできた		

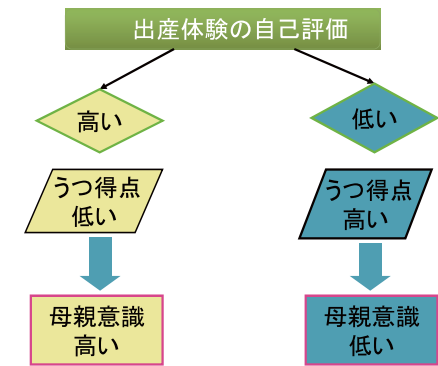
第1因子: $\alpha=0.80$ 第2因子: $\alpha=0.81$ 第3因子: $\alpha=0.86$

この尺度は臨床や母子保健の現場で産後の母親のメンタルケアや子育て支援に関する研究で出産体験の満足度を測定するツールとして多くの研究者に活用されています。

次に、この尺度を使って、産後入院している

母親990人を対象に、出産体験と産後うつ、母親意識との関連を調査しました。その結果、出産体験の自己評価が高い（満足度が高い）母親は、うつ得点が低く、母親意識が高いことがわかりました。

出産体験の自己評価と産後うつ傾向・母親意識との関係



特徴と強み

母親支援の一環として臨床現場との連携

出産体験は女性の人生に大きな意味を持つことが国内外の多くの研究から明らかになりました。しかし、臨床現場では母親の出産体験の語りを傾聴する時間が十分取れてい

母性看護外来の目的

産科外来に通院している女性の身体的、心理的、社会的問題について相談にのり、妊娠の継続や中止の意思決定、ハイリスクな状態にある女性の母親意識形成過程を支援する。また、保健学科と附属病院産科婦人科病棟のスタッフとの連携により、周産期における妊産婦のQOL向上に貢献する。

活動内容

子どもを産むか産まないかについて悩んでいる女性の悩みや不安を聴いて気持ちの整理を支援します。妊娠や出産、育児についてモヤモヤした気持ちを聞いて、気持ちの整理を支援します。必要に応じて夫婦面接（家族面接）を行います。
・要予約、有料（自費）

群馬大学保健学科と看護部の連携による看護専門外来
＜母性看護外来＞



今後の展開

周産期における女性とその家族の健康課題を解決・支援していくためのエビデンスの蓄積と安全な周産期医療を提供するための助産ケアの開発と評価

周産期における女性とその家族の視点から健康課題を発見し、問題解決していくためのエビデンスに関する研究と女性が満足と実感できる助産ケアの開発と評価、満足な妊娠・出産・育児を創生する環境に関する研究を積み重ねていきたいと考えています。